

磐田市文化会館建設検討委員会（第1回）会議録【要約版】

【日時・場所】

平成27年8月19日（水）10:00
磐田市文化振興センター 視聴覚室

【出席者】

建設検討委員会委員：青島美子、浅羽 浩、小野泰弘、佐藤典子、鈴木正善、鈴木洋子、
鳥居 勤、永井聡子、村上勇夫

磐田市：渡部市長

事務局：清水市民部長、井熊企画部理事

文化振興課 落合課長、小澤、新貝

文化・体育施設等整備室 金子室長

環境デザイン研究所：斎藤、根舛、小高

1. 委嘱状の交付

2. 市長挨拶

前年度のあり方検討会では、今後の文化施設の方向性を検討いただき、「財政的に大きな後年度負担とならないように、新たな文化会館建設に着手する」という方向で提言をいただいた。

そして、この建設検討委員会が本日スタートした。記憶に新しいと思うが、新国立競技場の事業費が膨らみ、総理の一言で白紙になった。どうせ作るのであればということの積み重ねの結果である。

この検討委員会へお願いすることは、あり方検討会で出していただいた、後年度負担に配慮しつつ、機能を重視し、少子高齢社会の中、文化施設として市民会館をどう構築するかを提言をいただきたい。

また、併せて文化振興センターの将来についても意見をいただきたい。

現在、文化会館、文化振興センターを利用するにあたり、駐車場が満車の場合、今之浦の市有地を臨時駐車場として使用するなど駐車場不足が大きな課題の1つである。

新たな施設は、駐車場等課題の解決を踏まえ、さらに修繕しやすい建て方や、機能も重視しつつ品格を落とさずにどうやって構築していったらいいか等意見をお願いしたい。

併せて、委員の皆さんにお願いしたいのは、自由活発に、言葉を選ばず、意見や質問をしていただければと思う。今年度の委員会スケジュールが配布されていますが、しっかりと議論をしていただきたい。

3. 委員自己紹介

4. 会長、副会長選任

委員より、会長に静岡産業大学浅羽教授、副会長に磐田市自治会連合会副会長村上様という提案があり全委員から承認される。

5. 議事

①委員会の目的と所掌事務・・・事務局説明

(会長)

事務局から委員会の設置の目的と所掌事務について説明がありました。

老朽化が進む磐田市民文化会館の建替えに向けて、建設の位置、会館の基本理念などの基本構想、施設の運営方針や具体的に客席の数など規模等を定める基本計画について審議、策定することが私たちの任務になります。

この点についてよいか。

(委員)

条例第 1 条の規定（市が設置する劇場及び音楽堂等の文化施設）に、文化振興センターの議論は含まれるか確認したい。

(事務局)

あり方検討委員会の提言書の記載にもあるとおり、文化振興センター機能も含めて検討する。

(委員)

市長の挨拶に、文化振興センターのことも一体的に考えて下さい、とおっしゃったので、そういう認識の上でこれから議論させていただきたいと思う。

(市長)

文化ホールが主となる。現在は、文化振興センターとホールが一体になっているが、一体ありきではなく、分離でも、ホールと一体でもいい、そういう思いで関わってくるので、文化振興センターのことも「等」の中に含まれる。

(会長)

それでは、次に進めます。議事②磐田市民文化会館の概要と現状、③磐田市文化施設等のあり方に関する検討委員会の提言について事務局から説明願います。

②磐田市民文化会館の概要と現状・・・事務局説明

③磐田市文化施設等のあり方に関する検討委員会の提言・・・事務局説明

(会長)

市内の文化施設の現状、あり方に関する検討委員会の提言書の概略を説明いただいた。

今日は、第 1 回ということで、現状と報告内容を正確に理解することが、大切かと思うが質問はないか。

(委員)

市民会館を使っている立場上、正確に現在の市民会館がどういう状態かを知っておくべきと思う。

現在、市民会館を使って仕事をしており、月末に大きな公演がある。スタッフに現状を聞いたら次の通りである。

- ・会館は丁寧に使っており、修繕なども行っているため維持できているが、施設の老朽化は進んでいる。無理なく今の状態で使うなら、なんとか使っていくことは可能だが、大きな舞台づくりは不可能である。

- ・機構的には無理がきている。舞台を使う時に、それ以上の効果が出るように使うには、トラックで機材を持ち込んで、フォローして倍くらいの機材を入れてやっており、市民会館だけの機材では老朽化で限度が来ている。

現実に、ここ数年の利用の中で、次のような事が発生した。

- ・稽古中に舞台照明が消えて真っ暗闇になった。
- ・音響が操作できなくなった。
- ・空調設備が故障し、暖房なしで、リハーサルと本番公演を行った。また、夏にも同じ

く空調設備の故障で冷房なしでリハーサルを行った。

このような状況を考えると、施設整備に時間をかけることはできない。

この委員会が本気となり、議論を重ね進めていかないと、新しい会館が完成するまでの間、空白期間がかなりできてしまう懸念がある。また、会館は耐震の問題もある。

(会長)

会館の施設設備の老朽化といいますか、課題についての具体的な話をいただいた。この点について何か事務局の方で補足はありますか。

(事務局)

耐震の話が出たが、耐震診断の結果は HP で公開している。施設は強抵抗型建物で、大破することはないだろうとの診断であり、これまで継続して使用してきた。

それ以上に、空調、配管、ステージ周り等の設備は非常に苦しい状態にあり、故障を直しながら使っているのが現状である。

(委員)

今までの説明では、建て替え計画の目処がついたところで閉館と思っていたが、開館できるまで会館を続けるということによいか。

(事務局)

設備を直してでも使える間は使っていきたい。

利用状況からも文化会館は必要な施設であり、空白期間が1年、2年空くということは、市民にとって大変な不便をかけることになる。

(委員)

この委員会ですることは、移転地の候補を探すというのが第一項目にある。耐震化工事をしたり、施設の大規模修繕をして、現在の場所に存続するより、あり方検討委員会で検討した結果、財政上、リニューアルや耐震化より、移転したほうが財政的にいいのではないかと、という結論を導き出しているのか、お聞かせ願えればと思う。

(事務局)

地盤沈下等の影響より配管に大きな影響が出ていることは事実である。耐震補強により建物は改善されても、地盤の改善は難しい。地盤を含め、全部やり直すということになった場合かなりの工事費を要する。この建物を耐震補強をするのは、あまりにも非現実的である。

(会長)

工程にとらわれることなく十分審議を尽くして計画を練ることが大事だが、一方で、今の施設の状況を考慮し、速やかに新施設の計画を策定しなければならないという趣旨の意見です。

(委員)

利用者として、この会館を三十何年間使わせていただき利用勝手のいい会館である。愛着があり、大事に使ってきた。この委員会の中で、速やかに新しい会館に向けての討議がされることを願いたい。

(副会長)

利用者の意見を聞いて、どうしても新築をするまで時間が必要となる。時間的な意味、スケジュールと、もしブランクができた時に、代替の場所でそれをカバーすることが可能なのか確認したい。

主に使っている事業とか代替は可能なのか。

(事務局)

通常は、今年度来年度で、基本構想、基本計画を立て、その後にくる作業としては、基本設計、実施設計という工程が入り工事着手となる。

代替の考え方だが、市内には、ゆやホール、福田中央交流センター、なぎの木会館という3つのホールがある。それぞれ特徴があり、1つはキャパシティの関係では、他のホールが800席というのが目安になる。昨年度のあり方検討会のときにも議論されたが、市民文

化会館の利用で考えると、1200～1500人という利用もあり、貸館という形で民間事業者が借りて利用しているということも考えると、すべての事業を他のホールで代替というのは難しい。

(事務局)

補足ですが、1200～1500人規模のイベントを行うとすると、市内では不可能なため、閉館している期間というのは他市にお願いせざるを得ない。

現在でも、急遽会館が何らかの理由で閉鎖した場合800席以上の興行は、市内ではできないため、他市の施設にお願いして振り替えてやることになる。

1500席となると、周辺では唯一浜松市にあるだけで、あと菊川市が1200席、それ以外は静岡市までない。このため、浜松市に振り替えてもらうということを利用者にはお願いをしなければならなくなる。

(委員)

振り替えとは別に催し物の中身を考えるようになる。施設規模に併せて企画をするということが必要になる。

市民文化会館並の施設は浜松市にしかないが、浜松アクトはなかなか取れないし、すごい経費もかかる。

また、はまホールがクローズして、浜松市では会館が足りなくなっている。多分、磐田の市民会館へ来ているはずである。

他市へお願いするというのではなく、中身を考えてやるようにせざるを得ない。

(委員)

今の発言に大きく関連するとは思いますが、中身から決めていく、選別していくということが、今磐田市がやることで大事なことかと思う。

興行は、売りたいから来るだけで、この期間は他にも良い芝居やコンサートが多くあるので、そこから選んで800席や300席で常時市民の方が集えるようなしくみを作るほうが先で市の考え方の方向性にある。

提言には、文化芸術を鑑賞する、体験するということはどこの劇場でもやっており、文化芸術を創造し、発信し、継承し、そのあと広げるといえるのは、かなり難しい作業になる。

④意見交換

(会長)

空白期間ができた時のしのぎ方について貴重な意見をいただきましたと思います。

残りの時間、現状の確認等でも結構ですし意見交換の時間を取ります。

(委員)

キャパが少ない施設を使用することとなった時のしのぎ方の話が出ている。それも大切なことだと思うし、工夫は必要と考える。これをもって、キャパを小さくする方向になるのは違うと思う。やはり、それなりのキャパは必要に思う。

毎年、磐田市内外の施設の方を招きチャリティー公演を行っている。1500席でも不足する。可能な限り多くの方を招きたいと思っている。市民会館があることで、毎年開催できるため1500席は確保したい。

(委員)

どんな会館を建てたいのか、何を目的にするかということをしっかり絞っていけば、それは解決されていく問題ではないか。磐田市にとって会館はどういう目的で作るのか、何で使うかをしっかり決めないと、あれもこれもで、国立競技場の様になってしまう。

1200、1500席がなぜ必要なのか。大きく欲しいと思っている方もいる。

400席ですばらしい舞台機構の会館を使って何かを作りたいというグループも出てきてほしい。この大きな会館をどう区切れれば400席で使えるのか、人が入らなかったではなく、この目的でここを使ったと言えるような会館が工夫できないものか、というようなことも

含めて、会館の規模や目的をはっきりさせる。

磐田市の文化のシンボルになる施設なので、見た目にもそのようにあって欲しい。外観に費用を掛け、中身が粗末ではなにもならない。利用者を意識して作ってほしい。

会館というのは、舞台、舞台袖、客席、楽屋が全部あいまって良い会館となる。

そこも含めて、何を目的にする会館なのかということをも十分に検討したい。

(委員)

文化会館というと、舞台中心の議論になりがちだが、文化とは何かということが文化振興計画の中にも書かれている。芸術文化、生活文化、スポーツ文化というような範疇の中で、市民文化会館がどういう使命を負っているかと考えると、展示などの鑑賞する部門も含めたものの考え方を委員の方たちの頭に置いておいていただきたい。

(委員)

あり方検討委員会では、文化会館の建設を中心として、施設をその周りに将来的に作ってはどうか、とかいう案が出た。最初に全部作るのではなく、計画を立て、財政の許す範囲で少しずつ建設する。早急に必要な市民文化会館を建て、小ホールの問題も出たと思う。

個人的には、地盤の悪い今之浦はあきらめ、地盤の良い場所に広大な土地を確保し、将来的に文化の中心になる方向で計画してほしいと思う。

静岡のグランシップのように新駅の近くにできたらという案もあるが、地価が高いとの話も聞いている。

(委員)

市民会館ができた昭和 50 年代は右肩上がり、市民会館建設の議論は楽だったと想像される。市長も言われたとおり、機能重視に特化しないと、実際の問題として難しいと思う。何を生かして何を捨てるのかというようなところを詰めないと、どうしてもあれもこれもとなる。

磐田市にとって荷が重い話になっていくことを前提に議論していかないといけない。市政全体の中での市民会館なので、市民会館だけの議論ではなくなる。

(委員)

環境デザイン研究所が来ているので、市民文化会館の建設の方向でデザイン等決まったら、経済波及効果を試算していただきたい。試算に当たっては、色々なケースを想定し、資料を委員会に提供していただきたく思う。

少子高齢化は、マイナスに考えがちだが、逆説に考えれば、違う効果も期待できる可能性もある。少人数、中人数の方がいいものを発掘できるような市政をやっていただきたい。

市民文化会館の建設に関しては、地元利益が懸念されるが、議論をつくせば解消されるだろう。こういう委員会を設置して、市民に問題提起をする、ありがたい委員会の設置だと思ふ。

(委員)

建物からは離れた意見要望になるが、私が今住んでいる場所からは、催し物を見に行きたいと思っても、アクセスが悪く、車の運転が可能な人は行けても、子供やお年寄は、会館で公演があるけど「遠いから」ということで断念せざるを得ない。

市内には、出かけたくても行けない、見たくても見れない、そういう思いをしている方が何人もいると思う。

磐田市の中でも交通の便が悪い人に、少し目を向けてくれると参加できる方も増える気がする。

(委員)

先程、経済波及効果を出してもらいたいと話されたが、文化会館というのは、経済がどうかということより、潤いのあるまちかという感覚に近い。経済効果で判断するやり方は気になる。

(委員)

文化はお金で換算できるものではないし、将来への投資である。文化は子どもたち、次世代へつなぐ一番大切なものの一つである。

文化施設にお金をかけることを反対の人たちに対し、文化だからいいじゃないか、ということではなく、そういう人たちにメッセージを送るためのデータを用意しておく必要があると思う。

(委員)

文化は難しい。なくてもいいと思われ、別に食べるのに困らないのではないかと思われがちである。

人間が人間らしく生きていくためには必要欠くべからざるものではないかと思う。お腹の足しにはならなくても、心の栄養にはなる。それが人間の生き方ではないかと思う。

採算は取れないが、是非みんなに提供しなければならぬものは絶対あると思う。

年に何回かは会館の舞台に乗せて、皆さんに提供する役目として、市民会館の自主事業にはあると思っている。その思いで行政と一緒に仕事をしてきた。

今度の会館も、皆さんの納得ができる形、それを無視するのではなく、納得する形のものちゃんと用意し、本来の目的は何か、市民会館の目的は何かを踏み外さないようにしたい。

(会長)

予定した時間が迫ってまいりました。今日は市長に同席していただきました。帰る前に何かありましたら。

(市長)

次の基礎を築くという時に、文化施設、学校施設の課題がある。委員の皆さんにお願いしたいのは、自分の思いは大事にしてほしい。しかし、5市町村の自分たちが逆の立場になった時ということもぜひ意識をしていただき、実現可能な案を成案として出してほしい。

この市民会館ができた当時は、高度成長の時代で、今とはまったく違う。

次に向い一步、二歩踏み出そうというイズムを、合併した5市町村の旧のエリアの中からも感じていただけるような配慮は絶対必要だろうと思っている。

そこで、機能重視と言わしていただいたのは、国立競技場みたいにならないように願いたい。実現可能な案を委員の皆さんが成案として出しいただきたいということと、それぞれが、近い、遠いはあろうが、自分が5市町村の逆の立場になった時のことも一方で考えていただきたい。

あり方検討会で、一步大きく踏み出して、建設すべきだという方向は出た、これは新聞報道もされた。しっかりとしたものを建築すれば30年、40年は使用することができる。

(会長)

本日は委員の皆さん、そして市長からも忌憚ないいろんな角度からのご意見を頂戴しました。今後、検討を進めていく上で、大変貴重な観点をご提示いただいたのではないかと思います。事務局で今日の発言を整理していただき、次回またご報告をお願いしたいと思う。

次回以降は、文化会館の目的、基本理念、候補地を選定していく場合の基準等について審議深めていきたいと考えています。

次回の日程を確認して会議終了